

情報教育全体計画

児童・生徒の実態

- 積極的に情報機器を活用することができる。
- 文字入力等の基本的なスキルは小学校低学年
- 情報モラルやマナー面に弱さが見られる。
- 携帯電話の所持率は、県平均並みである。

輪之内町の教育の方針

- 一人一人に生きる力(知・徳・体のバランスのとれた力)を育む。
- 学校の教育目標の具現に徹する特色ある学校経営をする。
- こ・小・中の連携や交流を深める。
- 「ふるさと輪之内」を愛する心を育てる。

国・県・町の方針

- 国・県
 - ・IT 新改革戦略を踏えた環境整備
 - ・ユビキタス環境に向けた取組
 - ・21世紀岐阜県型情報教育推進プロジェクト推進
- 町
 - 第10次情報教育推進事業＝平成29～31年度＝ICTの効果的な活用による学力向上の推進
 - 「主体的・対話的で深い学びにつながるICT活用」

情報教育の重点

教育の情報化を推進するとともに、児童生徒の情報活用能力を育成する。

教師・保護者の願い

- ・情報社会に適応できる能力を育成する。
- ・情報機器の基本的な操作する能力
- ・情報機器を適切に有効活用する能力
- ・必要な情報を選択する能力
- ・情報に対するモラルを身につける。

情報教育指導の力点

- 〈情報活用の実践力〉
 - ・ICT機器の操作能力及び効果的な活用能力
 - ・デジタル教科書・デジタルコンテンツの有効活用
- 〈情報の科学的な理解〉
 - ・情報の必要性の理解
 - ・情報を選択する能力
- 〈情報社会に参画する態度〉
 - ・情報モラル指導表に基づいた系統的な指導
 - ・保護者への情報モラルの啓発
- 〈教職員の研修・校務の情報化〉
 - ・実践交流の推進
 - ・教職員のスキルを高める研修

家庭・地域の実態

- ・家庭で、インターネットにつながる環境ができており、普及率は県平均並みである。
- ・光ファイバー網整備が行われた。
- ・情報モラル指導の必要性を感じており、関心もある。

「生きる力」として輪之内町が目標とする児童・生徒の情報活用能力					
発達段階	情報活用の実践力			情報の科学的な理解	情報社会に参画する態度
	しらべる	まとめる	つたえる		
A 小学校 (低学年)	五感を通じた直接体験やメディアから、大切な情報に気づくことができる。	自分の思いや考えを、絵や文章で表現することができる。	自分の考えや気持ちを、周りの人に話したり、書き表したりすることができる。	様々なメディアを体験できる。	人と関わって生活するときのマナーを知り、守ろうとする態度がとれる。
B 小学校 (中学年)	メディアから必要な情報を見つけだし、メモをしたり、コピーしたりして収集できる。	自分の考えや思いをはっきりさせ、絵や写真等に文章を添えてまとめることができる。	発表会や交流会で、自分の考えを筋道立てて話すことができる。	いくつかのメディアを使うことで、メディアのよさがわかる。	自分の作品を大切にするとともに、お互いのよさを認め合える。
C 小学校 (高学年)	情報収集の手段を選択し、自分に必要な情報を得ることができる。	周りに伝えることを意識し、機器の特性を考えて活用してまとめることができる。	自分に合ったメディアを選択し、情報を伝えることができる。	メディアの特性とその効果がわかり、適切なメディアを選び活用できる。	情報をもつ影響を考え、相手の気持ちや立場を考えたメッセージが送れる。
D 中学校	自分の課題に沿って、情報手段の適切かつ主体的、積極的な活用を図り、関連する情報を見つけだし、調べたことを相手に伝わるように、メディアの特性を生かして整理することができる。 ネットワークを使って、必要に応じて情報を受信したり、送信したりして、コミュニケーションを深めることができる。			メディアを学習に活用し、その特性を実感できる。 ネットワークの仕組みとその役割について理解できる。	メディアを使用する際の自己責任が理解できる。 望ましい情報モラルについて理解し、自己責任でネットワークに参加できる。

家庭・地域社会との連携

- ・「学校だより」「生徒指導だより」等通信
- ・PTA総会、学年・学級懇談会
- ・学習発表会
- ・各種団体の会議
- ・ホームページによる情報公開
- ・家庭緊急連絡網(Cute連絡網)
- ・家庭教育学級
- ・各校区地区懇談会
- ・生涯学習の場